

住之江区の文化施設

—クリエイティブセンター大阪(CCO)—

「クリエイティブセンター大阪(Creative Center OSAKA)」は、住之江区北加賀屋 4 丁目にある名村造船所大阪工場跡地の広大な敷地を活用するために設立されたアート複合スペースです。野外公園も含めた舞台公演・音楽ライブが行なえる施設を備え、芸術創造や発表の場として活用されています。船修繕用ドックや原寸大の船の図面を書くための原図室が今も残っています。経済産業省が平成 19 年に発表した「近代化産業遺産群 33」に選ばれました。

『北加賀屋レポート-北加賀屋のいまむかし-』近代化産業遺産(名村造船所大阪工場跡地)を未来に活かす地域活性化実行委員会 2010 *

『名村造船所百年史:1911~2011』名村造船所百年史編集委員会編集 名村造船所 2012 *

『造船 55 年』名村造船所 1967



『産業遺産の記録-日本の近代化と繁栄を支えた産業遺産の時空を超えた魅力に迫る!-』J-heritage/著 三オブックス 2012 *

クリエイティブセンター大阪(CCO)

<https://www.namura.cc/>

WEB「住之江図書館」→「住之江区を知る」→「郷土史よくある質問」→『クリエイティブセンター大阪(Creative Center OSAKA、略称 CCO)について知りたい』

調べかたガイドでは、住之江区の歴史をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

住之江図書館に所蔵しているものは、書誌事項の後に*をつけて表示しています。(* の無いものも所蔵館から取り寄せ可能)

小学生から読めるものは書誌事項の後に👉 オムリンマークをつけています。

WEB 大阪市立図書館のホームページ

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド:各区版

住之江区の調べかた

住之江区を知る—区名の由来—

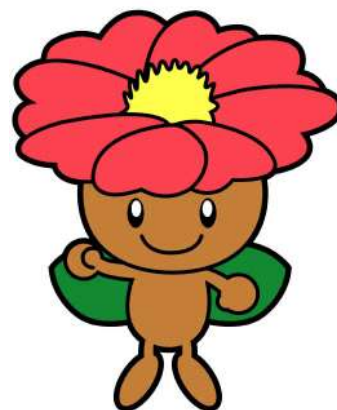
住之江区の史跡名勝—高燈籠—

住之江区の人物・伝説

—加賀屋甚兵衛—

住之江区の文化施設

—クリエイティブセンター大阪—



住之江区マスコットキャラクター「さぎびー」

大阪市立住之江図書館

〒559-0015 大阪市住之江区南加賀屋3-1-20

TEL 06-6683-2788

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>

開館時間 火～金曜日(第3木曜日は休館)

10:00～19:00

土・日曜日、祝・休日 10:00～17:00

休館日 ●月曜日、第3木曜日(祝・休日は開館)

●年末年始 ●蔵書点検期間

住之江区の調べかた

Ver5 2026.3改訂

住之江区を知る—区名の由来—

住之江区は、1974(昭和 49)年に住吉区から分区する際、古代よりあった地名「住之江(すみのえ)」を採って区名としました。江は「入り江」。古代には現区域の大半は海で、東部地域の粉浜から安立付近が海岸線でした。万葉集、土佐日記、古今和歌集等の古典文学の中にも「すみのえ」を歌枕にいただいた歌が多数登場しています。

また、「摂津国風土記」に「真住吉(ますみよし)住吉国(すみのえのくに)」と記されたように、「住之江」と「住吉」とは、もともと同じ起源を持つ地名でした。「すみのえ」には古代より「住吉」「墨江」「清江」「須美之江」「墨吉」などの表記も存在し、現在は読みを違えるとはいえ、「墨江(すみえ)」「清江(きよえ)」などは住之江・住吉両区内に地名や学校名として残っています。

『大阪の地名由来辞典』堀田暁生編 東京堂出版 2010 *
『日本歴史地名大系 28-[1] 大阪府の地名 1』平凡社 1986 *
『すみのえ・まち案内』大阪市住之江区役所区民企画室 2005 *

住之江区の史跡・名勝・建築—高燈籠—

現在、住吉高燈籠は住吉公園内(国道 26 号線の西側)にあります。もともと鎌倉時代末期に、漁民たちが住吉大社への献灯のために住吉の浜(現在の位置より約 200m西側)に建てた、わが国最初の灯台であったと言われています。

以後明治時代の末まで度々修理が行われてきました。その間この辺りは海岸でしたが、その後埋め立てが進み高燈籠も海から遠ざかり、灯台としての役目を終え、史跡として保存されていました。1908(明治 41)年に改築された木造の高燈籠も、1950(昭和 25)年のジェーン台風で壊れた後は石垣積みの基礎だけが残されていましたが、1974(昭和 49)年に現在地に石垣積みを移してコンクリート造で再建されました。

この建物は現在、史料館として、第1・第3日曜日の10時から16時の間、内部が公開されています。

『移りゆく住よし』石田稔共著 1988 p.88~94 *
『住之江区史』大阪都市協会編集 住之江区制十周年記念事業実行委員会 1985 p.142~143*

WEB「住之江図書館」→「住之江区を知る」→「郷土史よくある質問」→『住吉高燈籠(すみよし たかどうろう)について』



絵はがき『(住吉名勝) 住吉高灯籠』(刊年等不明)

WEB「デジタルアーカイブ」→「簡易検索」→「高灯籠」より

住之江区の人物・伝説—加賀屋甚兵衛—

江戸時代中期以降、町人階級が蓄積した商業資本を土地に投入し地代による長期の収益を得るのを目的とした町人請負の新田開発が多くありましたが、住之江区内の新田開発に名を残したひとりが、この加賀屋甚兵衛です。『敷津浦発展史』によると、1680(延宝 8)年河内国石川郡喜志村の農家山本善右衛門の二男として生まれた甚兵衛は 11 歳の時大阪に出て、両替商加賀屋嘉右衛門に奉公しました。精励の末、加賀屋の号を許され両替商として独立しましたが、1728(享保 13)年、資金難から途中で頓挫していた北島新田開発の権利を譲り受け、まずその開発に着手します。が、新田開発に力を入れるうち本来の両替商業は傾き、1747(延享 4)年には両替商を廃業します。1754(宝暦 4)年には開発済の北島新田を小山屋九兵衛に譲渡し、西方地続きの見立(のち加賀屋と村名変更)新田開墾に専念すべく、その地に新田事務所兼居宅としての新田会所を建築し、居を移しました。現南加賀屋 4 丁目にある加賀屋緑地は、その加賀屋新田会所跡です。甚兵衛は新田開発の功により名字帯刀を許され、以後桜井姓を称しました。

『敷津浦発展史』川端直正編集 大阪市立敷津浦小学校創立100周年記念事業委員会 1974 p.42~48 *

『住吉区誌』住吉区役所編集 住吉区分区十周年記念事業委員会 1953 p.67~69 p.237 *

『大阪人 = OSAKA-JIN 2010年7月/絶景住之江』大阪市都市工学情報センター 2010

*

WEB「住之江図書館」→「住之江区を知る」→「郷土史よくある質問」→『加賀屋緑地(加賀屋新田会所跡)について』